凡例

- 史料は、作成された年代順に収めた。題名は、収録していた史料集の言語をそのまま収録した。したがって、たとえばアメリカ・イギリスに関する史料がドイツ語・フランス語で収録されている（もしくはその逆）場合がある。
- 史料は、黒丸（●）がついた史料集に収録されていることを示す。複数の黒丸がついていることは、その史料が複数の史料集に収録されていることを示す。
- リストの作成は、以下の様に行われた。まず取り寄せた史料集を入力バイトの方に渡し、全ての史料を日付順に、全て入力。一定程度の史料が入力された後に、編集人が重複された史料をチェックし、重複された史料は削除する。新たな史料集のデータが入力された場合、同じ手順が繰り返された。
- データの入力に際し、その順番は史料集が取り寄せられた順番に行われ、それ故ほぼランダムに行われた。史料が複数の史料集に収録されている場合の史料の出典については、原則として、そのランダムに行われた入力において最初の史料集に記載されている出典を入力し、その他の史料集における出典情報については割愛した。
- 従って、出典における文献の引用形式は全く一貫していない。校正段階で一貫させることは、チェック体制リソースの限界から断念した。
- 史料の重複は、必ずしも自明ではない。例え同じテクストの史料でも、引用上の文脈が違っていることや、同一条約における引用箇所の違いが存在するからである。史料が重複していることの判断は、コーディネーターの判断で行った。
- 原則として、重複史料の出典は、下線が引かれた黒丸で区別した。しかし、データ入力作業の中で、出典がどの史料集なのかについてファイル上のデータから判別できないケースが出来てきた。その場合、データ入力・チェック体制リソースの限界から、下線による出典情報の明記を行えなかった。
- データの入力に際して、フランス語・イタリア語のアクサンは、省略した場合がある。同様に、ドイツ語のウムラウトも、ä→ae という風に置き換えた場合がある。これは入力時に際して、欧文特殊文字が入力できなかったという技術的な理由によるが、後に技術的問題が解決されてからは、アクサン、ウムラウトを原文に忠実に入力した。
- 略語については、各史料集に付属している略語一覧を参照して、本冊子独自の略語一覧表を作成した。しかし、大量の略語を載せながらも略語表を載せていない史料集における略語については、略語の詳細を明らかに出来なかった（例えばリプゲンス・ロートによる四巻本の史料集）。
- 人名索引については、索引の数字は史料番号を指す。
- 索引については、事項索引の作成は、収録史料の言語が英独仏伊蘭ポーランドの六ヶ国語に渡っていることから最終的に断念した。読者のご海容をいただきたい。